

第30回エネルギー政策検討会会議議事録（要約）

1 会議の概要

- (1) 日 時：平成16年4月12日（月）午後10時10分から10時40分
- (2) 場 所：福島県庁 応接室（福島市杉妻町2-16 県庁本庁舎2階）
- (3) 次 第

ア 開 会

イ 議 事（報告）

福島県エネルギー政策検討会設置要綱の一部改正について
最近の国等の動きについて

ウ 閉 会

2 開 会

【司会】

- 只今から第30回エネルギー政策検討会を行う。

【事務局】

（資料 1～4に基づき説明）

【司会】

- 本日の会議は、何かを決めるということではでない。
- メンバーも大分入れ替わったので、新たな意見や感想等があれば。

【検討会メンバー】

- 原子力委員会は、長期計画改定のため「意見を聴く会」を、実施しているが、その中ではかなり核燃料サイクルに対する議論が出ている。
- 原子力委員会はこれまでもこういう委員の意見を聞きながら、十分な評価をしないで既存の方針に固執してきた。
- 特に前原子力委員会のメンバーの締めくくりの原子力白書、これも総論部分は信頼回復云々と書いてあるが、結果的には核燃料サイクルに固執している。
- 原子力委員会メンバーも5人のうち4人が新しくなったこともあり、注目したいのは1月6日の年頭所信、これはかなり踏み込んだ発言をしている。それで一部業界紙には方向転換もあるのではないかという期待もあるが、今後とも委員会が本当に出された意見、これを真摯に受け止めて誠意を持って対応するのかどうか、十分に注視していかなくてはならない、という感じを持っている。

【司会】

- 私もそう思う。前回の長計のときの議論などは、いろいろと意見を聴く会などをやったと思うが、その時の状況とは隔世の感がある。前は推進一辺倒だったが、本音の部分というか、例えば学者の間でも今は相当いろんな議論がある。
- ただ、果たしてこの通り本気でやっていくのかどうか。

【検討会メンバー】

- 出先機関にいた昨年に、各市町村長さんのところを歩いて、再開の動きについての意見を頂いた。相双地方の市町村長さんは相当興味・関心をお持ちだと思うが、他の市町村長の話の聞いても、どなたも国の判断をそれでいいとは言わなかった。

- やはり、県がきちんと安全・安心について判断をする、慎重に検討していることに、大変信頼感をお持ちだなと感じた。ただ、住民が何をもちて安心・安全だと思えば良いのかと言う情報を必ずしも首長さんレベルでも十分お持ちだとは思えない。県を非常に頼っている、という感想が一つ。
- 昨年読んだ本で、中心市街地というのは植物で、大型ショッピングセンターなどは、動物だという記述があった。動物はどこでもおいしい餌があるところにいつでも行って商売をしている。おいしいところがなくなればさっさと行ってしまう。だけど中心市街地は根が生えている植物で、そこから動くということができない。
- 同じような流れでいくと、大きなプロジェクトを持ってきてそれが地域再生・振興にずっとなるかというところ必ずしもそうではない。どこかで寿命というか消費期限というものがなくなってしまった後の本当の地域振興というのは、根の生えた、地元にあった、資源であったり人材であったり、そういうものが大切で、そのへんを根絶やしにしてしまうとその後が不毛になってしまうという感じを普段持っている。

【司会】

- 中心市街地は、植物が枯れないようにしないと駄目だ。

【検討会メンバー】

- ここ数ヶ月の動きの中でも、4つ興味がある。
- 一つは福井県のプルサーマルの容認、二つ目は青森県が六ヶ所再処理施設の是非について慎重な姿勢を示している。三つ目は原子力委員会が今幅広い議論を続けている。四つ目、マサチューセッツ工科大学、ハーバード大学、核燃サイクルに批判的な勢力が出てきた。
- ここ数年間の県の提言が、いろんな意味で方向性が一になりつつある。ただその結果については、まだ、見えない。アンテナを本当に高く鋭敏にしておかなければいけない。いつ何が起こるか分からないというスタンスで、このエネルギー政策検討会というのはここしばらくは静かに推移しているが、いつ何が動くかという前提で臨んでおかなければいけない、と考えている。

【司会】

- 今まで見えなかったものがいろいろ見えてきたという感じである。

【検討会メンバー】

- いろいろな形で中間とりまとめの後、いろいろ関係者が発言をして、いい方向に動いているように見える。そう見えるが、本当にそうなるのか、いい方向に動いているからその方向に行くかと判断するのはまだ早いのではないかという感じがしている。
- 産業構造審議会、総合資源エネルギー調査会では、長期的な計画についてまとめていくと言っているが、そういう中においてもプルサーマルの話がでてきてプルサーマルの実施に向けて動いている。プルサーマルをどうするかは原子力委員会の中でいろいろ検討されており、その中には海外プルトニウムどうするか、ということもあるだろうが。
- 原子力委員会においていろいろな先生方からプルサーマルに否定的な意見が出ているが、一方では実施に向けて動いているという感じに見えるところがある。
- この辺を原子力委員会でどうまとめて行くのか、論点を整理してきちんとその考え方にまとめていくのかどうか、その動向を見ていくというか、鋭敏な感覚を持って見て

いく必要がある。

【司会】

- どうぞ、誰か自由に発言を。

【検討会メンバー】

- 感想ということになるが、この政策検討会に1年ぶりに出席した。
- 当時は、何か方向は決まっていたが、それに対して福島県がいろんな提言をしてるんだなど、そういうふう感じていたが、今日、事務局からの話を聞くと、福島県が今まで言ってきたことが、いろんなところで評価されてきているとそういう感じを受けた。
- この1年間、私にとってはブランクだが、世の中の動きに対して今驚いているというのが感想である。

【検討会メンバー】

- 一年ぶりの話もあったが、改めてこの検討会に出席する新しいメンバーも加わった。
- 事務局から客観的な資料が提示された。
- 我々は2つ国に申し上げてきた。原子力安全保安院の経済産業省からの分離独立、して核燃サイクルを国民的な議論の遡上に乗せるべきだと、良い情報も悪い情報も含めてすべて情報公開しながら国民的な議論をすべきだと申し上げてきた。
- マスコミもこの問題についてはほとんど触れてこなかったが、それぞれの社説等で、会社の意見、マスコミの意見として出てきており、有識者の間ではそういう声が高まってきているのではないか。
- ただ、反対にここで何とかやらないと大変だという声も、非常に強く出てきているというのは、いよいよどちらかの臨界点に近づいてきているのかと思う。
- 市民参加懇談会などでも、言いつ放しで言うことだけ聞いて、そのままブルドーザーのように進めるという、基本的な姿勢は変わらないので困るよ、という意見も出ているようだが、今はその臨界点に向けて正にみんなが慌てだしている感じである。
- ここで止めないと大変なことになる、という声が、今まで推進だと思っていた皆さんからも出てきているのは、どちらかに向けて強気に動き出しているとも考えられる。
- しっかりこの問題を我々は見つめていくことが必要かと思う。誰彼がどう言った、原子力委員長がこう言ったということにあまり安心しないで、実体がどちらに向いているのかを見極めて行く必要がある。
- 自民党5役の皆さんに言ったように、原子力発電と核燃料サイクルの二頭の象を追うことによって、原子力発電そのものが全部だめになる可能性もあり、それをよく分けて、そしてどうするか、ということ議論する。また議論しているようであるので、見守っていきたい。
- 我々が言ってきたような論点が、案外しっかり受け止めて頂いて、意見としてあちこちから出てきていることも確かである。
- この検討会の意味というのは非常に大きいと思うので、これからも機会を捉えて、見つめていきたい。
- いよいよどちらかに動き出す事態になった場合にどちらに動くのか、動いた場合どうするのか、動き出しそうな場合どうするのか、そういうことも検討会で、(考えていかなければならない。)

【司会】

- 以上で会議を終わる。